

## 7 文章を読むことが苦手なGさん（小学校・中学校）

Gさんは、一文字ずつ文字を読むことができるのですが、教科書や本を読むと、読み飛ばしや読み間違いが多くなってしまいます。文章の内容の読み取りも難しく、読むことに抵抗を示すようになってきました。どう配慮していけばよいでしょうか。

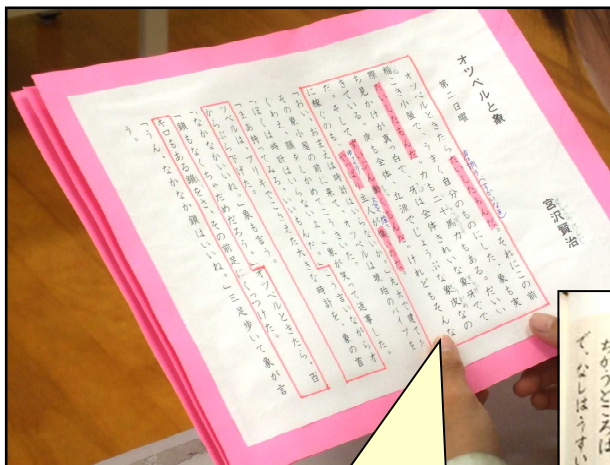
### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎単語をまとまりとして捉えたり、スムーズに隣の行に視点を動かして読んだりすることが難しいため
- ◎単語の意味を理解し、状況をイメージすることが難しいため

#### 1 どこを読んでいるか分かりやすく工夫する〈①-2-1〉

○読書補助具を用いたり、必要な箇所にマーカーを引いたりする。

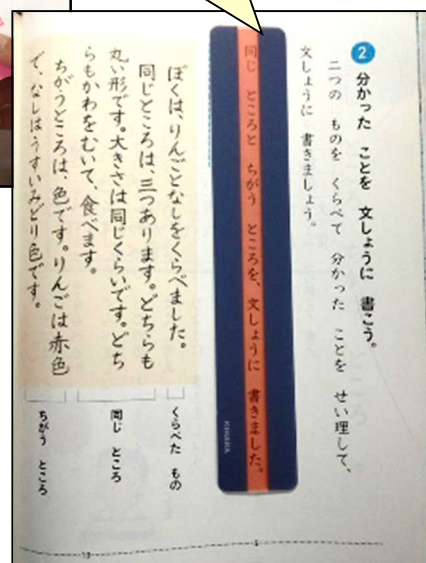
### 合理的配慮・具体的な支援（例）



自分が読む部分を枠で囲っています。読み間違いがないように、特に気をつけたいところはマーカーで印をつけて強調しています。

読んでいる行に定規を当てたり、指でなぞったりすることで、読み飛ばしを減らすことができます。

スリットを使って両隣の行の文字を隠し、読みたい行に集中して読むことができるようにしています。



## 2 読みやすくなるように教材を工夫する <①-2-1>

○板書や教材を準備する際は、適切な文字の大きさや字体、色や行間を考えて用意する。

注目してほしい部分を抜き出して、拡大表示すると、とても見やすくなりました。

必要な部分には読み仮名を振ったり、アンダーラインを引いたりしたので、読みやすくなりました。



田

田

田

田

同じ大きさの文字でも、使用するフォントや色によって見やすさが変わります。児童生徒の実態に応じたものを用意しましょう。

## 3 内容が理解できるように教材を工夫する <①-2-1>

○教科書の本文だけでなく資料画像等を提示することで、文章の内容理解を補助することができる。



## 4 読みの予習の定着を図る <①-2-3>

○あらかじめ読む場所を伝えておき、家庭や通級指導教室などで読みの練習をしておくと、安心して授業に参加することができる。



読みの苦手な児童生徒が「だめな子だ」という印象をもたせないような雰囲気づくりも大切です。がんばっていることやできるようになったことを学級で積極的に知らせ、同じクラスの一員として、心地よく過ごせる学級づくりをしましょう。

## 8 計算することが苦手なHさん（小学校）

Hさんは授業中、どちらかといえば落ち着きがありません。教師の説明が少し長くなると聞いていられず、読み書きもあまり得意ではないようです。特に算数の時間では、九九がなかなか覚えられません。また、暗算、繰り上がり・繰り下がりの計算に誤りが多く、そのためか学習課題に手をつけることが少なくなってきました。どう配慮していけばよいでしょうか。

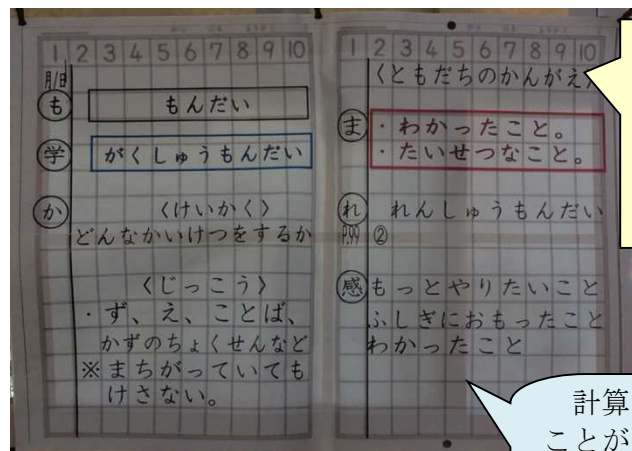
### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎「言語の理解に関すること」や「聴覚による記憶」が苦手であるため
- ◎算数の学習は、頭の中で言葉を使って考えながら進めていくことから、Hさんのように言語の理解が苦手な場合、計算等がやりにくくなっているため

### 合理的配慮・具体的な支援(例)

#### 1 算数の学習やそれ以外の場面でも、マス目のノートやプリントを用意する <①-2-1>

- マス目のノートやプリントを使用し、計算する時の桁を揃える等、視覚的に捉えやすいようにする。
- マス目をタイルなどの具体物に置き換えやすいようにする。

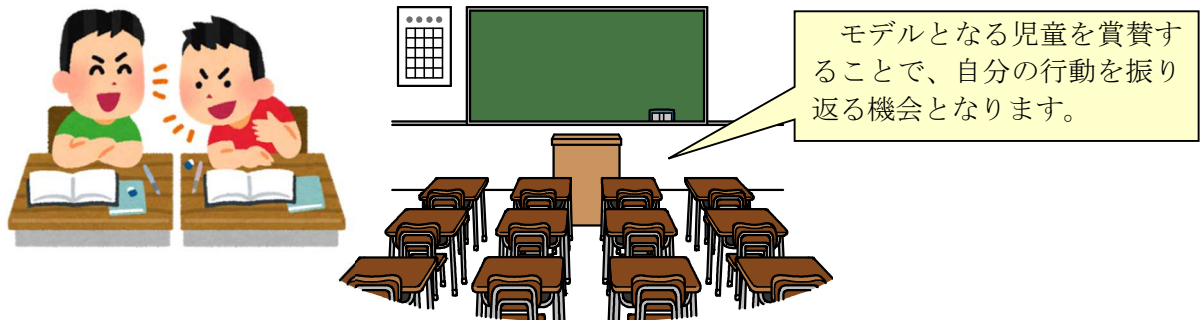


あらかじめ、ノートの書き方（決まった形や流れなど）や、使用する記号やマークを決めておくといよいでしょう。

計算するときに桁がずれることがなくなり、繰り上がりや繰り下がりの計算が正確にできるようになりました。

## 2 教師の話に注意が向けられるような座席にする <①-2-1>

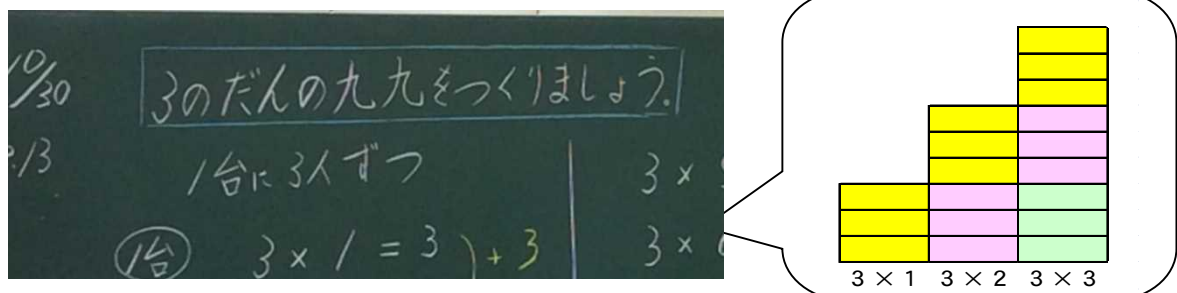
- なるべく前の方の座席にし、教師が必要に応じて支援できるようにする。
- 前や横の席にモデルとなる児童がいるとよい。



## 3 言葉だけでなく、目に見える形(図、絵、具体物等)に置き換える

<①-1-1>

- 九九の学習では、タイルを使いながら、その意味を理解して答えを出す。
- 各段の数字の変化の規則性を手がかりに覚えていく。



## 4 課題解決の手順を分ける <①-1-2>

- 補助的に書いた絵や図で問題の意味を理解させる。
- 計算に必要な数や計算記号を穴埋めさせて、計算式を完成させる。
- 児童の手元に九九表を置いたり、課題によっては電卓を使用したりする。

おはじきげえむをしよう

10 はいくつといくつになるかたしかめよう

●○○○○○○○○ 1と9

●●○○○○○○○ 3と7

●●●○○○○○○ 2と8

●●●●○○○○○ 5と5

●●●●●○○○○ 7と3

●●●●●○○○○ 6と4

●●●●●○○○○ 4と6

●●●●●○○○○ 3と7

×	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

ワークシートに課題の意味が図示されているので、解決の手順に見通しがもてました。

## 9 計算することが苦手な I さん（中学校）

I さんは、数学の簡単な四則計算につまずきが見られます。文字式の計算や、答えを導くまでの手順を示す必要がある問題を解くことが難しく、すぐにあきらめてしまいます。他にも、九九を正確に覚えていないこと、割合を用いる計算につまずきがあるようです。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎数の概念や大小、順序、合成・分解の理解が定着していないこと、抽象的な事象の認識が苦手なため
- ◎小学校の算数の学習の経験から、「できない」「きらい」と思い込んでしまい、学習意欲を失くしているため

### 合理的配慮・具体的な支援（例）

#### 1 通級による指導など、認知面での困難さを改善及び克服する指導を個別に行う <①-1-1>

- 言葉による理解や聴覚による認知、また空間の位置関係を捉えたり、頭の中で操作したりすることが苦手なことから、生徒の特性に応じた支援を個別に行う。



通級による指導では、本人が抱えている学習上の困難さを改善・克服するための具体的な目標や指導内容を、事前に作成します。

単なる教科の補充学習にならないよう留意します。

## 2 学習内容を、日常生活や実体験に基づくものに置き換える <①-1-1>

○中学校の数学では、文字式を用いて抽象的な概念を学習することから、日常生活や実体験に基づくものに置き換えて、課題等を提示する。

## 3 視覚的な手がかり（図、絵、具体物等）や実験・操作を活用する

<①-1-1>

○教師の言葉による説明や生徒の頭の中での操作だけでなく、図や絵などを用いて視覚的に捉えさせたり、具体物を操作させたりして課題を解決する。

1辺に  $n$  個の石を置くと、石の数は全部で...

$2 \times 4 - 4$     $3 \times 4 - 4$     $4 \times 4 - 4$     $5 \times 4 - 4$

具体物を操作することで、積極的に取り組むようになりました。

## 4 課題を分けたり、ヒントカードを活用したりする <①-1-2>

- 補助的に書いた絵や図で課題の意味を理解させる。穴埋めなどの形式で、答えを求めるまでの手順を示したヒントカードを用いて、解答に導く。
- 課題によっては電卓なども使用する。

ワークシートに図や表が用意されているので、解決の手順に見通しがもてました。

三角形の段数  $x$  と、正方形の合計数  $y$  個の関係は...